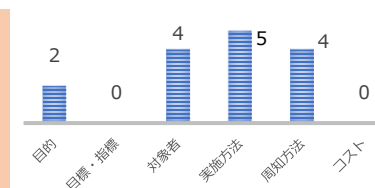


# 災害対策事業に関する改善プログラム（概要）

部課名	防災安全部防災課
目的	災害時における市民の被害軽減や、市民・地域の防災活動の推進
キーワード	発災時の情報伝達・地域連携
キーワードに関する取り組み概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での自主的な防災活動を促進するため、様々な講習会や自主防災組織への各種補助金を交付する。</li> <li>・地域の防災力を高めるため、地震災害時の全ての避難施設で会議・訓練を行う。</li> <li>・防災意識の醸成等のため、市民や関係機関と連携した各種訓練を実施する。</li> <li>・地震災害時の避難行動の啓発のため、防災マップを配布する。また、洪水・土砂災害の懸念がある危険な区域や箇所、避難施設等をハザードマップに掲載し、配布する。</li> <li>・防災活動の円滑化と効率化のため、防災行政無線や、全国瞬時警報システム等の運用管理を行う。</li> </ul>

評価人チームの評価結果	
総合評価	一部改善すべき 改善すべき項目
総合意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常時からできる限りの備えを行うため、また、災害時には誰も取り残されることのないようにするため、市民等に様々な防災情報をもれなく効果的に周知してほしい。</li> <li>・市民の防災意識向上のため、災害対策の重要性を分かりやすく伝えて理解してもらうとともに、訓練や講習をより効果的に実施してほしい。</li> </ul>



## 評価人チームの主な意見と事業所管課の改善に向けた主な取り組み

### 【議論のポイント1】防災情報を幅広く、もれなく、多くの方に伝えるための効果的な情報共有方法について

<p>評価人チーム</p>	市民等に様々な防災情報をもれなく効果的に周知してほしい。
<p>事業所管課</p>	<p>平常時と災害時の情報を必要な方が知りたいタイミングで容易に把握できるウェブサイトの新設し、周知します。</p> <p>また、外国人や在勤・在学の市外在住者も防災情報が把握できるよう、すでに多くの利用者があり、翻訳機能もあるTwitterを活用し、情報発信に努めます。</p>

(P.2-3参照)

### 【議論のポイント2】市民の防災意識の向上における行政の役割について

<p>評価人チーム</p>	市民の防災意識向上のため、訓練や講習をより効果的に実施してほしい。
<p>事業所管課</p>	<p>防災教育について、教員や生徒が災害時の行動をより具体的に理解できるよう体験的・実践的な内容に見直し、実施します。</p> <p>また、市境の住民が避難に困ることがないように、近隣の自治体やその住民と連携した、より実践的な各種防災訓練や啓発イベント等を行います。</p>

(P.4参照)

【議論のポイント1】防災情報を幅広く、もれなく、多くの方に伝えるための効果的な情報共有方法について

評価人チーム  
の意見

平常時からできる限りの備えを行うため、また、災害時には誰も取り残されることのないようにするため、市民等に様々な防災情報をもれなく効果的に周知してほしい。  
（改善すべき項目：対象者/周知方法）

<評価人からの提案>

- ・大規模な災害を想定してできる限りの備えを行うため、また、災害時に誰も取り残されることがないようにするため、リスク管理や災害情報などを市民へ周知徹底する必要があるのではないか。
- ・市民だけでなく、町田市に在勤・在学の市外在住者に向けても情報を伝える方法を検討するとよいのではないか。
- ・災害時に有効な防災行政無線やメール、ライン等において外国語でも発信するなど、外国人に対して情報を伝える方法を検討するとよいのではないか。
- ・防災マップやハザードマップの認知度を向上させるとともに、活用方法の周知も行う必要があるのではないか。

事業所管課の  
改善の方向性

・市民等に様々な防災情報をもれなく効果的に周知する取り組みを検討する。

No	事業所管課の 改善に向けた具体的な取り組み	目標			実施結果		
		指標	現状値 (時点)	目標値 (時点)	実績値 (時点)	取り組み内容 (2023年度)	取り組み内容 (2024年度)
①	【防災情報等に関するサイトの新設】 平常時は防災情報等を容易に把握でき、災害時は災害情報や避難情報及び避難施設の混雑状況等をリアルタイムで把握できるウェブサイトを新たに開設し、周知する。	新設するウェブサイト の閲覧数	0回 (2023年 3月)	2,700回 (2024年 3月)			
②	【風水害の防災意識向上に向けたセミナーの実施】 洪水・土砂災害ハザードマップを活用し、市民が風水害からの避難に必要な知識を習得しながら適切な避難行動を事前に整理できる「東京マイ・タイムライン作成セミナー」を、東京都と共催で継続的に実施する。	セミナー の参加人数 (累計)	35人 (2023年 3月)	135人 (2025年 3月)			
③	【防災マップや洪水・土砂災害ハザードマップの周知・啓発】 防災マップや洪水・土砂災害ハザードマップの市ホームページについて、マップの見方や活用方法等がより分かりやすくなるよう、他自治体の事例研究を通じて解説内容や方法等の見直しを行うとともに、多くの方に閲覧してもらえよう更なる周知・啓発を行う。	①防災マップの 閲覧数 (年間)  ②洪水・土砂災害ハザードマップの 閲覧数 (年間)	①9,916回 (2023年 3月)  ②58,192回 (2023年 3月)	①12,000回 (2024年 3月)  ②70,000回 (2024年 3月)			

【議論のポイント1】防災情報を幅広く、もれなく、多くの方に伝えるための効果的な情報共有方法について

No	事業所管課の 改善に向けた具体的な取り組み	目標			実施結果		
		指標	現状値 (時点)	目標値 (時点)	実績値 (時点)	取り組み内容 (2023年度)	取り組み内容 (2024年度)
④	【防災情報等の入手方法の周知】 メール配信サービスやTwitterなど、市の防災情報等の入手方法をより多くの方が認識できるよう、防災講話や防災教育など、市民と直接話ができる機会を通じて、Twitterのアカウントを案内するQRコードを配布するなど、周知を強化する。	情報入手方法の周知	- (2023年3月)	実施 (2023年6月)			
⑤	【防災情報等の発信の充実】 メール配信サービス等の新規登録が想定しづらい在勤・在学の市外在住者が利用しやすくなるように、すでに多くの利用者がいるTwitterを活用して、災害時の情報が把握できる仕組みを新たに整える。また、外国人も防災情報が把握できるよう、翻訳機能もあるTwitterによる情報発信を充実させる。	Twitterによる情報発信の発信回数	0回 (2023年3月)	12回 (2024年3月)			

【議論のポイント2】市民の防災意識の向上における行政の役割について

評価人チーム  
の意見

市民の防災意識向上のため、災害対策の重要性を分かりやすく伝えて理解してもらおうとともに、訓練や講習をより効果的に実施してほしい。（改善すべき項目：目的/対象者/実施方法）

＜評価人からの提案＞

- ・自然災害などの発生リスクの高まりなど、諸環境が変化しているため、事業も常に見直しを行う必要があるのではないか。
- ・自助・共助・公助のベストバランスを市民に分かりやすく説明し、市民に理解してもらう必要があるのではないか。
- ・公助や自助では守れない人がいるので、共助を市民に理解してもらうため、地域単位での防災活動を市が牽引するとよいのではないか。
- ・災害時に冷静に動けるよう、若い人を含めた全世代や外国人に向け、様々なシチュエーションを組み合わせたより具体的な訓練や講習を実施するとよいのではないか。
- ・教員や生徒が災害時の対応をより理解できるよう、学校で行う訓練は行政の指導のもとに行えるとよいのではないか。
- ・近隣市や協定締結市など、他自治体との連携を強化し、合同で訓練を実施することを検討できるとよいのではないか。

事業所管課の  
改善の方向性

・災害や有事において、地方自治体として町田市が担う「住民の生命・身体及び財産を保護する」という役割と環境の変化を常に意識しつつ、自助・共助が最大限発揮されるよう、より効果的な防災教育や防災訓練等の実施を検討する。

No	事業所管課の改善に向けた具体的な取り組み	目標			実施結果		
		指標	現状値 (時点)	目標値 (時点)	実績値 (時点)	取り組み内容 (2023年度)	取り組み内容 (2024年度)
①	【高校生以下を対象とした新たな防災教育の実施】 小学校、中学校、高等学校等において実施している防災教育について、教員や生徒が災害時の行動をより具体的に理解できるよう、東京マイ・タイムラインの作成や防災テントの設営体験など、体験的・実践的な内容に見直し、実施する。	新たな防災教育の実施回数 (累計)	0回 (2023年3月)	12回 (2025年3月)			
②	【近隣自治体と連携した防災訓練等の実施】 市境の住民が避難に困ることがないよう、市民だけでなく町田市近隣の自治体（八王子市、相模原市等）やその住民と連携した、より実践的な各種防災訓練や啓発イベント等を行う。	防災訓練等を合同で実施した自治体数 (累計)	0自治体 (2023年3月)	2自治体 (2025年3月)			